

【基盤研究(S)】

人文社会系 (人文学)



研究課題名 近代アジアにおける水圏と社会経済—データベースと空間解析による新しい地域史の探求

東京大学・大学院経済学研究科・教授 **しろやま ともこ**
城山 智子

研究課題番号： 17H06116 研究者番号：60281763

研究分野： 史学、アジア史

キーワード： 近代、アジア、水圏、データベース、空間解析

【研究の背景・目的】

現代社会の「グローバル化」の下で、各国史の総和としてではない世界各地の結びつきを解明することが求められている。また、従来の欧米中心の世界観が多極化する中で、世界史の新たな重心としてのアジアについて、大きな学術的・社会的関心が向けられている。ここで重要な課題は、「欧米」に対する「非欧米」といった見方を超えて、アジア独自の内的特徴に基づく地域史を構想することである。

一方、日本のアジア史研究は、1980年代のアジア交易圏論以来、貿易、商人ネットワーク、沿海都市に関する分析を通じて、域内の「繋がり」と「可動性」を明らかにしてきた。しかし、多様な事例研究を相互に位置付け、かつ内陸の後背地を含めて研究を展開するには至っていない。

これらの課題に応え、アジアを一つのまとまりとして捉えようとする時、地域が共有する自然環境の特徴として、一つはモンスーンと季節的降雨が広域にわたって大きな影響を及ぼすこと、もう一つは域内の多くの地域が、水系に囲まれた地形、すなわち水圏であるということという、「水」をめぐる二つの条件を挙げることができる。

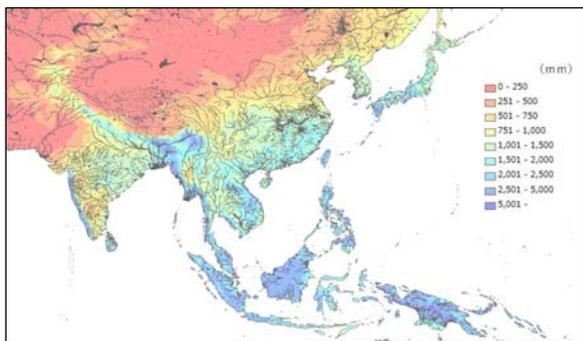


図1 季節的降雨と水圏

本研究は、モンスーンおよび水圏という自然環境要因の下での、社会経済活動に関する人文社会科学からの分析を行うことで、メタ・ナラティブとしての新たなアジア地域史の構築を目指す。

【研究の方法】

本研究は、新しいリソースと分析手法からなるアプローチを行う。まず、気候と水圏に関する3つの問題群①「自然環境・現象」、②「生産・生活」、③

「移動・流通」を設定する。各問題群の関係する情報に、緯度・経度を備えた空間IDを付け、空間情報データベース(DB)を構築する。次いで、データに空間解析という分析手法を応用する。地理情報システム(GIS)等による可視化情報の重ね合わせと比較や、統計分析の手法を援用して、推計と検証を行い、自然現象・環境と各地の社会経済の相互関係を明らかにしていく。最後に、空間解析の結果について、時系列・地点間・問題群間の組み合わせから検討し、気候・水圏への対応から照射される近代アジア社会の構造と動態について考察を加える。

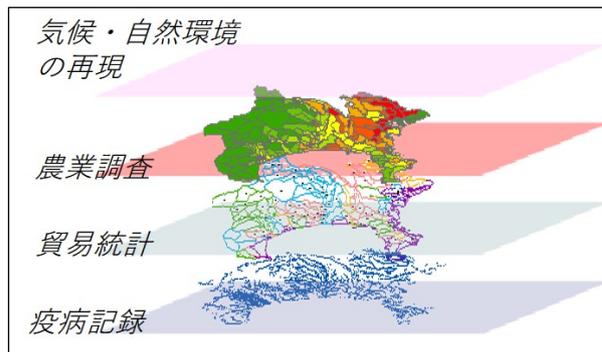


図2 空間解析の概念図

【期待される成果と意義】

本研究は、データに基づいて、気候・環境と生産・流通を統合した新たな地域史像を提示することを目指す。同時に研究方法の開発を通じて、広く人文社会科学に学術的貢献を行っていく。また、本課題で作成したDBは、地球環境情報統合システム(DIAS)などにも提供し、文理融合プロジェクトとしての社会還元にも努める。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・城山智子『大恐慌下の中国：市場・国家・世界経済』(名古屋大学出版会、2012年)
- ・神田さやこ『塩とインド：市場・商人・イギリス東インド会社』(名古屋大学出版会、2017年)

【研究期間と研究経費】

平成29年度－33年度 140,800千円

【ホームページ等】

Visualizing Economic History in Asia (VEHA)
<http://www.veha.e.u-tokyo.ac.jp/>